



# 志音貢会 演奏会

松本深志高校 創立140周年記念

2016年  
**10月23日[日]**  
14時開演  
キッセイ文化ホール大ホール  
(長野県松本文化会館)

■主 催：深志同窓会・松本深志高校音楽部志音会  
■後 援：長野県/長野県教育委員会/松本市/松本市教育委員会/信濃毎日新聞社/SBC信越放送/市民タイムス/松本平タウン情報/週刊まつもと

→————— F —————←  
ごあいさつ  
→————— ♪ —————←

松本深志高校創立140周年記念の最大の事業であります、志音会演奏会が、マエストロ 北原 幸男氏、ソプラノ 鈴木 愛美氏、テノール 与儀 巧氏、バリトン 太田 直樹氏、アルト たぐち たみ氏をお迎えして開催されること、誠におめでとうございます。

同時に、この演奏会は、創立140周年に関わり合い、巡り会った現役生、同窓生の全ての方のカタルシスとして、私は捉えたいたいと思います。改めて、歴史と伝統を見つめ直し、お互いが次の世代に母校の思いを繋げていくのが大事な事だと思います。

現役生の生徒の皆さんには、全員の方に参加して頂き、自分なりの思いを感じて欲しいと思います。

企画、運営等全てに携わって頂いた杉山会長はじめ、志音会の皆様に心から感謝を申し上げます。

◆松本深志高校同窓会 会長 井上 保◆



松本深志高校の歴史は、140年。脈々と受け継がれる深志の精神は、諸先輩や後輩、現役生徒の様々な活動を通じて、現在の私にも、常に語りかけてくれるよう思います。

志音会は、北原 幸男氏という願ってもない指揮者をお迎えし、松本深志高校創立140周年を祝う本日の演奏会を開催いたします。志音会の魅力は、何より母校を卒業したご高齢の先輩から現役生までが集い、練習を積み、美しいハーモニーを奏でるところにあります。志音会の中にはプロとして活躍している方々もいます。そして、この演奏会のために練習を始めたばかりの現役生もいます。同じ学び舎で過ごした想いを込めて、全国各地から、本日の演奏のために集まってきたそれぞれのメンバーは、音の深さもその経験により異なりはしますが、不思議な一体感のもとに、素敵なひとときを創り出します。アクティブでありながら優雅、そしてドラマチック。魅力的なソリストや合唱の歌声とともに、この瞬間を心躍らせて楽しめる幸せを本当に嬉しく感じます。

松本市は、音楽の街。そして、この恒例の志音会の演奏会も、そのお役目を果たしつつ、また次々と新たなメンバーを加えて、豊かな音の世界を創り出していくことでしょう。

◆松本深志高校同窓会 副会長 内川 小百合◆  
(140周年事業 文化事業委員会委員長)



松本深志高校が創立140周年を迎えまして、その記念事業の一環として、志音会の皆さまによります記念演奏会がここに盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

志音会は、深志高校の音楽部に集ったOBの皆さまと現役生を中心に吹奏楽部のOBの皆さまも加わって、日頃より活発に活動をされているとお聞きしておりますが、そのお取組みが、ここ松本の芸術文化の向上にも大きな役割を果たしておられますことに敬意を表するものであります。

皆さまお一人おひとりが、それぞれのお立場でお忙しい中練習を重ねられ、本日を迎えたことと存じます。深志高校での出会いを経て、音楽を愛するという共通の想いで繋がっておられる皆さまには、音楽部に脈々と流れてきたその音楽を存分に表現していただけるものと存じます。本日の演奏会が、会場にお集まりの皆さまに感動を与える素晴らしいものとなりますとともに、志音会のさらなる発展のお力となりますことをご祈念申し上げます。

終りに、この場をお借りし、在校生の活動に対しまして、日頃より皆さまにご理解とご支援をいただいておりますことに深く感謝を申し上げ、ご挨拶いたします。

◆松本深志高校 校長 小口 俊幸◆

本日は演奏会にご来場いただき、まことにありがとうございます。深志同窓会の全面のご支援をいただき、北原マエストロと4名のソリストをお迎えして松本深志高校創立140周年記念志音会演奏会を開催できますことを心より幸せに思います。私は、創世記天地創造と物理学のビッグバン理論の関係にも思いを巡らせながら3年間におよぶ練習をして参りました。今回も志音会が大切にしています「現役一年生から後期高齢者世代までが一緒のステージ」が実現できております。活動を手弁当で支えてくれる志音会役員会と技術委員のメンバーに感謝し、お世話になりました全ての皆様に心よりの御礼を申し上げながら、開演させて頂きます。

◆松本深志高校音楽部志音会 会長 杉山 敦◆



今回は、志音会メンバーとして参加の機会をいただき、ありがとうございます。

高校のクラブ活動というのは基本的に自己完結的なものです。コンクールや各種大会等に参加することもありますが、これとても同世代間の交流であって、他の世代との交流の機会は基本的にありません。ですから、今回、OB（先輩諸氏）の皆様と共に演奏する機会をいただきましたことは、生徒諸君にとっても、貴重な経験となるはずです。

音楽は本来、一過性のものではなく、生涯を通じて関わってゆくものでしょう。顧問としましては、高校時代のさまざまな活動を通じて、音楽を一生愛し続ける気持ちを持ってもらえたらいよい、という願いを抱いているのですが、今回は、先輩諸氏が卒業後も音楽を愛し続け、音楽に関わり続ける姿を、現役の部員たちは目の当たりにさせていただくことになります。しかも、母校140周年記念ということで、世界的な指揮者の下、通常の活動の中では決して演奏できないような曲に触れさせていただくことになりました。

このような機会をいただきましたことを心から感謝申し上げます。そして、この活動を通じて、現役生諸君がさらに音楽に親しみ、これからも音楽を愛し続ける気持ちを抱いてくれることを願ってやみません。

◆音楽部顧問 松本 純一郎◆



この度は、盛大な記念公演に参加させていただき、ありがとうございます。深志高校創立140周年という大きな節目の年を在校生として、音楽部員として、迎えられることは嬉しいかぎりです。

男女や学年を超えて仲の良い音楽部は、私たちの居場所であり、学校生活に必要不可欠な存在です。嬉しいことも、悩みもすべて話せるのは、音楽が好きという仲間が集まった音楽部だからなのではないかと思います。音楽部はこれからも私たちの大切な心のよりどころであり続けるでしょう。

そんな音楽部員であった皆さんの高校時代の思い出が、今回このような記念公演を作り上げる原動力になったのだと思います。

こんな節目の年に当たったことは今でも信じられない思いです。私たちは、めったにない貴重な機会を生かせるように、そして今音楽部に所属できていることに感謝して、精一杯演奏します。

◆音楽部部長 花岡 大地◆


  
**プログラム**

**客演指揮：北原 幸男**  
**管弦楽：志音会オーケストラ 合唱：志音会合唱団**

**I. P. I. チャイコフスキー《交響曲第5番ホ短調 作品64》**

~~~~ 休憩 ~~~~

**II. F. J. ハイドン オラトリオ《天地創造》より**

**第1部**

- 1 a 序奏 混沌の描写
- 1 b アリアと合唱「この時さしこむ光の前では」
- 2 b 合唱とソプラノソロ「喜ばしげな天使たちは」
- 6 b レチタティーヴォ「いま光に満ちて」
- 6 c 独唱付き合唱「天は神の栄光を語り」

**第2部**

- 8 b 三重唱「愛らしい優雅な姿で」
- 8 c 独唱付き合唱「主の力は偉大であり」
- 9 c アリア「いまぞ天はひかりに満ちて輝き」
- 11 a レチタティーヴォ「神はつくったものすべてをご覧になり」
- 11 b 合唱と三重唱「大いなるみわざは果たされた」

**第3部**

- 12 b 讃歌と二重唱「おお主なる神よ、あなたの恵みで天と地は」
- 14 a レチタティーヴォ「おお、幸福な一組の男女よ」
- 14 b 独唱付き合唱「すべての声よ、主に向かって歌え！」

Soprano (ガブリエル・イヴ) : 鈴木 愛美 (客演)  
 Alto : たぐち たみ (39回卒 志音会会員)  
 Tenor (ウリエル) : 与儀 巧 (客演)  
 Bass (ラファエル・アダム) : 太田 直樹 (31回卒 志音会会員)

**III. 讳歌 深志百年**

(1976年 創立100周年記念として作られた曲です)

作 詞 小林 俊樹

作 曲 飯沼 信義

**IV. 松本深志高校 校歌**

作 詞 松原 威雄

作 曲 岡野 貞一

編 曲 内山 信



## プログラムノート

■P. I. チャイコフスキー 《交響曲第5番ホ短調 作品64》

「運命」を感じるのは、どういう時だろうか。天職を得たときなど、おそらくは自分の意志を超えた何かが人生を支配していると思う瞬間だろう。近代人は自分で自分を律することを良いこととしてきた。実は神を信じていても救いを得られるかどうかは自分次第だと思っている。ところが、往々にして人生はままならない。1887年の夏に書かれた交響曲第5番の作曲ノートに、チャイコフスキーは「交響曲第1楽章の標題。序奏。運命を前にしての、あるいは、同じことだが、神の摂理の不可解な定めを前にしての、完全な諦め（後略）」と書き込んでいる。親友の危篤に立ちあい、辛い体験をしたチャイコフスキーは運命を切実なものと感じ、宗教に開眼して信仰を深めていく。

翌1888年1月1日、皇帝アレクサンドル三世はチャイコフスキーに3,000ルーピルの年金を与えることを公にした。お祝いの電報をもらった作曲家は「たいへん幸せでうれしい（中略）、それほどの功績はないような気がして、ちょっと恥ずかしい」と日記に認めている。これはまさにロシアを代表する芸術家の一人となったことを示す出来事だった。

前年の着想に基づいて第5番の作曲に取り組んだのはこの年の5月から。標題に基づいた第4番とは対照的に、第5番は古典的な交響曲の構成に戻っている。ただし、「運命」についての思索がここにも反映され、第4番で用いた「運命の動機」を全曲にわたって使い、統一感をもたらしている。第1楽章の冒頭でこの楽想を演奏するのは、彼が好んで用いるクラリネット。しかもとくに暗い色調のA管で重く響く。その後、ソナタ形式の主部はクラリネットとファゴットが呈示する第1主題を軸に、明るい雰囲気のヴァイオリンの第2主題を対置して構成されている。第2楽章ではホルンの独奏が憧憬に満ちた甘美な主題を歌うが、中間部で「運命の動機」が金管楽器による鋭い響きで奏でられ、痛みを思わせる叫びとなる。第3楽章はチャイコフスキーの得意とするワルツ。通常のスケルツォにしなかったところに創意がある。終わり近くでクラリネットとファゴットが穏やかな悲しみの色を滲ませて、静かに「運命の動機」を響かせる。第4楽章では導入部の冒頭で弦楽器が高らかに「運命の動機」を歌いあげ、短調から長調へと衣替えしたメロディが勝利を思わせる。主部はソナタ形式で、壮麗なコーダが続く。宿命に打ち勝ちたいという強烈な願望なのか、それとも運命を克服して打ち勝ったという自負なのだろうか。ここでも「運命の動機」が中心となって、輝かしいフィナーレを形作るのである。

◆武藏野美術大学教授 白石 美雪（29回卒 志音会会員）◆

## ■F. J. ハイドン 《天地創造》

この作品はオラトリオ《四季》と並んでハイドン(1732~1809)の創作の頂点に位置づけられる傑作であり、交響曲、弦楽四重奏曲の発展に貢献し、オペラや教会音楽など多くの分野に数多くの作品を残しているハイドンの芸術の集大成といえる。《天地創造》《四季》の2つのオラトリオ作品は、1791年~1795年のあいだの2度にわたるイギリス旅行においてヘンデル(1685~1759)の《メサイア》をはじめとするオラトリオ作品に触れ、強い感銘を受けたことが創作の契機のひとつとなった。天地創造の台本は、もともとヘンデルのために書かれた旧約聖書の「創世記」と「詩篇」、ミルトンの「失楽園」をもとにした英語によるもので、ハイドンは彼をイギリスに招いた興行主ザロモン(1745~1815)からこれを受け取ってウィーンに持ち帰った。ザロモンはハイドンにオラトリオ作品の創作を期待して台本を渡したが、英語が堪能でなかったハイドンがこの作品に着手できたのはスヴィーテン男爵(1733~1803)によるドイツ語翻訳を得てのことであった。スヴィーテン男爵は外交官で当時宮廷図書館長の職にあり、ウィーン音楽界の有力者のひとりとして芸術界をけん引した人物である。彼はバロック音楽への造詣が深く、なかでもとりわけバッハ作品の再評価に努めた。またモーツアルトやベートーヴェンとの関わりが深く、モーツアルトにとって経済面を含めて最大の支援者であった。若きベートーヴェンはスヴィーテン男爵に交響曲第1番を献呈している。

《天地創造》は、1796年~1798年にかけて作曲され、1798年4月末、ウィーンのシュヴァルツェンベルグ伯爵の宮殿で初演を迎えた。初演を含めて暫くは貴族による演奏会で非公開に行われ、公に演奏されたのは翌1799年3月のことである。ハイドンが自ら指揮し、当時第一線で活躍する演奏家たちによって行われた初演は成功を収め、ハイドンの母国オーストリアにおける公開初演に続いて、わずか2年ほどのうちにヨーロッパ各国の演奏会で取り上げられ人々の賞賛を浴びた。音楽の伝播に時間のかかる時代において、短期間に多くの人々の耳に届いたことは驚くべきである。全曲は3つの部分から構成され、3人の天使と合唱、オーケストラで演奏される。第1部と第2部においては、天地創造の6日間の過程について3人の天使を中心に描かれる。全曲の冒頭は、音画的な技法によって混沌が演出され創意に満ちた序奏で始まる。第1部の結び「天は神の栄光を語り」は独唱群と合唱による壮麗な曲で、ハイドンの晩年を特色づける和声法と対位法を駆使した手法によってまとめられており、この手法は終曲にもみることができる。第3部では楽園における最初の男女、アダムとイヴの愛、幸福が描かれる。終曲ではソリストと混声合唱による神の御業を讃美した大合唱で力強く締めくくられる。

《天地創造》の初演直後に創作された《四季》もまた、スヴィーテン男爵による台本にハイドンが作曲を手がけたオラトリオで、スコットランドの詩人トムソンの叙事詩「四季」をもとにつくられた。オーストリアの農村を舞台に自然、人間贊美を歌いあげた作品である。これらのオラトリオ作品は、19世紀に盛んになった合唱運動のなかで好んで歌われた。中世の宗教的な音楽劇に前身をもつオラトリオの歩みにおいて、ヘンデルの《メサイア》、ハイドンの《天地創造》《四季》はひとつの頂点であり、後のロマン主義オラトリオに多大な影響を与えている。

◆有賀 詩織(54回卒 志音会会員)◆

## 出演者プロフィール



### 北原 幸男 (きたはら ゆきお) / 客演指揮

桐朋学園大学卒業。卒業後NHK交響楽団指揮研究員となる。指揮を尾高忠明、秋山和慶、小澤征爾、C.プジヤース、W.ピーチニクの各氏に師事。その後、タンブルウッド音楽祭で小澤征爾、レナード・バーンスタイン両氏の指導を受ける。1985年ブラハの春国際コンクール第3位入賞。1985年から1992年までインスブルック・チロル歌劇場(オーストリア)専属指揮者として活躍。1992年ドイツのアーヘン市立歌劇場及び同管弦楽団の常任指揮者、1993年には音楽総監督に就任し、1996年まで務める。その間、ハノーヴァー、キール、ダルムシュタット、ブラハの主要オペラハウス、中米(ホンジュラス)、北欧(エストニアなど)、リンツ・ブルックナー管、北ドイツ響、北イスラエル響、ブラハ放送響、ブダペスト響、ブルガリア・フィルなど、40以上のオーケストラに客演を重ねる。国内でも1986年札幌交響楽団定期演奏会に出演以来、NHK交響楽団、東京交響楽団、新日本フィルをはじめ多くのオーケストラに招かれると共に、新国立劇場、びわ湖ホール、関西二期会などのオペラ公演を指揮し高い評価を得ている。1992年N響定期公演の『ショスタコーヴィチ:交響曲第11番』CDをリリース。1993年、グローバル音楽奨励賞を受賞。東京都交響楽団と『ショスタコーヴィチ:交響曲第5番』、日本フィルと『ブームス:交響曲第1番』のCDが続けて発売された。2008年より、宮内庁式部職楽部指揮者として天皇皇后両陛下主宰の国賓を招いての宮中晩餐会、午餐会の指揮者を務める。2012年日本合唱協会首席指揮者に就任。2013年、下總皖一音楽賞(埼玉県)を受賞。2014年、文化芸術活動推進への貢献により、富士見市より表彰された。

現在、宮内庁式部職楽部指揮者、武藏野音楽大学教授。埼玉県富士見市文化芸術アドバイザー。



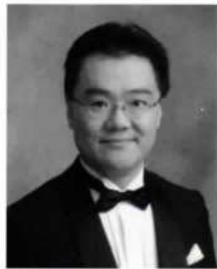
### 鈴木 愛美 (すずき まなみ) / ソプラノ (客演)

国立音楽大学声楽科卒業。同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第7期生修了。第26回飯塚新人音楽コンクール大賞、文部科学大臣賞、朝日新聞社賞他受賞。2008年文化庁新進芸術家海外研修員としてミラノに留学。ベルヴェデーレ国際声楽コンクールのミラノ代表として、ウィーン本選会に出席。2010年よりローム・ミュージックファンデーション奨学生としてウィーンに留学。オペラでは、新国立劇場『サロメ』奴隸、『魔弾の射手』花嫁付き添いの乙女、『リゴレット』小姓、びわ湖ホール『リゴレット』小姓等で出演。海外でも、2011年ウィーン・シェーンブルン宮殿劇場にて『フィガロの結婚』バルバリーナ、2012年ウィーン楽友協会のGläserner Saalにてコンサートに出演。その他、『秘密の結婚』カロリーナ、『ツバメ』リゼット、『アルバート・ヘリング』ワーズワース等で出演。コンサートでも、ヘンデル『メサイア』、フォーレ『レクイエム』、オルフ『カルミナ・ブランナ』等に出演。二期会会員。



### 与儀 巧 (よぎたくみ) / テノール (客演)

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。ボローニャにて研鑽を積む。第6回東京音楽コンクール第1位及び聴衆賞受賞。2010年東京二期会『オテロ』(白井晃演出)ロデリゴ、2012年二期会創立60周年記念『パリアッチ』ペッペ、神奈川国際芸術フェスティバル『マダムバタフライX』(宮本亜門演出)ピンカートン、2013年びわ湖ホール・神奈川県民ホール『椿姫』ガストン子爵、2014年びわ湖ホール『死の都』アルベルト伯爵等出演。同年東京二期会とアン・デア・ウィーン劇場との共同制作『イドメネオ』タイトルロールでは、伸びやかで清新な演唱で公演の成功に寄与し、2015年11月東京二期会『ウィーン気質』ツエドラウ伯爵でも絶賛を博した。コンサートでも、バッハ『カンタータ』、モーツアルト『レクイエム』、ベルリオーズ『テ・デウム』、ベートーヴェン『第九』等で活躍。『NHKニューイヤーオペラコンサート』にも2014、15、16年と連続出演し、今最も注目を集めるテノールである。二期会会員。



太田 直樹(おおた なおき)／バリトン(31回卒)

東京芸術大学卒業、同大学院修了。シュトゥットガルト音楽大学修了。オペラ研修所第8期修了。伊藤亘行、ギュンター・ライヒ、コンラート・リヒターの各氏に師事するほか、エルンスト・ヘフリガー氏のマスタークラスに参加。新国立劇場、二期会、東京室内歌劇場、サントリーホールオペラアカデミーなどのオペラ公演、読売日本交響楽団、東京交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢定期演奏会、草津夏期国際音楽祭などに出演するほか、ドイツ歌曲を中心としたリサイタル、バッハ、モーツアルト、ベートーヴェン、フォーレ、ブームスなどの宗教曲のソロを多くとめる。近年はスクロヴァチエフスキ指揮ザールブルク音楽祭『第九』、ロジェストヴェンスキ指揮読売日本交響楽団『イオランタ』、韓国高陽市星沙劇場『曾根崎心中』、ソウル室内オペラフェスティバル『リウ・トゥンの夢』などに出演するほか、宮城、東京、長野、埼玉、岡山、広島など各地で『冬の旅』『美しき水車小屋の娘』『白鳥の歌』『詩人の恋』『リーダークライス』などによるリサイタルを行っている。また、まつもと市民オペラではその立ち上げからプロデュースに関わり、第10回佐川吉男音楽賞を受賞した『魔笛』をはじめ『こうもり』『椿姫』『カルメン』『フィガロの結婚』の全公演に出演している。

国立音楽大学、桐朋学園芸術短期大学、都立総合芸術高校非常勤講師。二期会会員。東京室内歌劇場会員。



たぐち たみ／アルト(39回卒)

東京芸術大学音楽学部声楽科に学ぶ。長野冬季五輪公式文化芸術プログラム・オペラ「信濃の国善光寺物語」・「御柱」に、キャスト出演。松本深志高等学校創立120・130周年記念の志音会演奏会にて、「第九」・「戴冠ミサ」のアルトソロとして、昨年の第13回演奏会では「こうもり」のオルロフスキ役にて出演。松川村「すずの音ホール」の柿落とともに、青島広志氏、太田直樹氏と共に、また「第2回まつもと市民オペラ・椿姫」にフローラ役にて出演。近年は長野市ホクト文化会館大ホールでの柳澤寿男指揮の東日本大震災・長野県北部地震追悼チャリティーコンサート「モーツアルトのレクイエム」にアルトソロとして、作曲家飯沼信義氏、番場俊之氏の歌曲初演等に出演。各地(松川村、伊那、足立区、横浜)にて「たみ音楽教室」を主宰。子ども達と「たぐちたみとたんぽぽ隊」を結成。

松川村「すずの音子ども合唱団」講師、東京未来大学の「こどもみらい園」の音楽講師、東京室内歌劇場会員。

## 志音会

1952年、「深志と音楽を志す者のグループを目指す」との意をこめ「志音会」と命名、設立された。会員は、プロの音楽家を含む松本深志高校音楽部の卒業生及び音楽部在籍者約900名で構成され、さらに吹奏楽部のOB、志を同じくする卒業生及び一般の音楽愛好家も参加している。会員相互の親睦を深めるとともに、数々の演奏会を開催。「音楽を志す」ため、定期的な演奏会開催を目指し、志を同じくする者を含めた「合唱団」と「オーケストラ」を擁する。1996年の母校創立120周年記念演奏会は、指揮者・ソリスト全員、合唱・オーケストラメンバーの多くを会員で構成し、ベートーヴェン作曲交響曲第9番他を演奏し、それが現在の活動の基となった。2006年には母校創立130周年演奏会を開催し、2013年に志音会創立60周年記念演奏会、2015年に第13回演奏会を開催した。オーケストラとしては、2005年に第1回志音会オーケストラ演奏会を開催。これまでに、深志高校陸上部OB会「天馬会」記念式典・15会卒業年次回「あきつ会」記念式典・同窓会主催の深志教育会館での「桜の宴」等で演奏しいずれも好評を博する。

2018年3月に第6回志音会オーケストラ演奏会を、2019年3月に第15回志音会演奏会を開催予定。



# ご協賛いただいた皆様

有料老人ホーム エリシオン開智  
コール しのはら  
小林耳鼻咽喉科医院 小林 克彦  
株式会社ウェルライフ信州  
複合福祉施設セントラル・ビオス  
知新堂  
株式会社 東京インテリア家具 松本店  
社会医療法人 抱生会 丸の内病院  
宮澤 和子  
NPO法人「結いの街」デイサービス 結いの家  
須澤 博一  
社会福祉法人 ハーモニー 理事長 大久保 典昭  
宮澤 孝之  
内川 輝雄  
塩ノ崎 文博  
南天診療所 横内 定明  
高木 洋行  
医療法人 青樹会 一之瀬脳神経外科病院  
理事長 一之瀬 良樹

医療法人 深聖会 しのざき内科呼吸器科クリニック  
理事長 篠崎 史郎  
藤森病院 藤森 芳史  
唐沢内科小児科医院  
谷川整形外科クリニック 谷川 浩隆  
野口 昌彦  
医療法人 仁雄会 穂高病院 古屋 直行  
久保田外科医院 久保田 充  
有限会社 かいたく 草間 謙一郎  
あかはね内科神経内科医院 院長 唐木 千穂  
山田歯科医院 山田 正博  
株式会社 アキットレーディング  
任せて安心 まごのて老人ホーム 郷津 好正  
高宮音楽教室  
島立音楽教室  
うしやまヴァイオリンスクール  
医療法人 杉山外科医院

|       |       |        |       |       |       |       |       |        |
|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 太田 良則 | 小沢 瑞奈 | 花村 恭子  | 耳塚 昇  | 耳塚 真弓 | 金井 浩  | 山本 恵朗 | 百瀬 都子 | 三枝 光子  |
| 斎藤 道男 | 内山 稔  | 海野哈爾子  | 犬飼 康元 | 中原 悅子 | 山田 幹彦 | 宝沢 勝幸 | 飯沼 信義 | 飯沼 淑子  |
| 白川 靖子 | 矢島 一枝 | 飯沼 雅朗  | 塩原 純子 | 布山 富子 | 飯沼 勝浩 | 大沼嘉津子 | 近藤 安雄 | 大倉 孝子  |
| 海老沢丕道 | 高根 恒子 | 野口 洋一  | 山田 真  | 青木 透  | 伊藤丈太郎 | 上條 直子 | 大久保文弘 | 上條 正名  |
| 佐藤きよ子 | 吉野恵美子 | 宇佐美美穂子 | 斎藤 洋子 | 中條 高昭 | 林 哲郎  | 細萱 博信 | 倉科小百合 | 須田 知孝  |
| 駒村 尚子 | 加藤 恵子 | 竹本 祐子  | 田中 叔子 | 中嶋 治  | 皆川 静子 | 清水 雄二 | 星野 尚美 | 大久保由紀子 |
| 小林 秀男 | 望月 博子 | 臼井 朗仙  | 岡崎 里美 | 中村友規子 | 雨宮えりか | 穂刈由香里 | 山田 瞳子 | 征矢ひろみ  |
| 北澤 玲子 | 矢崎 国彦 | 檀原 文代  | 安藤 尚美 | 田中 裕美 | 金子かおる | 高橋 匡弘 | 神谷 仁  | 多留美奈子  |
| 倉科 直美 | 張 淑美  | 林 奈穂   | 里見 介史 | 坂井 紘紀 | 中村 悠基 | 穂苅 綾  | 松原 太一 |        |

ほかに匿名でご協賛いただいた方々

## 志音会のあゆみ

- 1996.9.23 松本深志高校創立120周年記念演奏会 長野県松本文化会館 指揮:飯沼信義、吉野恵美子  
「ペートーヴェン 交響曲第9番 合唱付き」「懐かしい日本の歌」
- 2005.11.3 志音会オーケストラ第1回演奏会 松本市音楽文化ホール(小ホール) 指揮:磯部省吾  
「バッハ 二つのヴァイオリンの為の協奏曲」「レスピーギ リュートの為の古典舞曲とアリア」「モーツアルト アイネ・クライネ・ナハトムジーク」
- 2006.10.22 第9回志音会演奏会 松本深志高校創立130周年記念 松本市音楽文化ホール 指揮:増井信貴  
「シューマン 詩人の恋」バリトン/太田直樹「レスピーギ リュートの為の古典舞曲とアリア」「モーツアルト 戴冠ミサ」
- 2008.3.15 志音会オーケストラ第2回演奏会 松本市音楽文化ホール(小ホール) 指揮:磯部省吾  
「モーツアルト アイネ・クライネ・ナハトムジーク」「グリーク ホルベルク組曲」「モーツアルト 交響曲第29番」
- 2009.3.15 第10回志音会演奏会 松本市音楽文化ホール 指揮:長野力也、吉野恵美子  
「水のいのち」「飯沼信義編曲による唱歌」「チャイコフスキー 弦楽セレナーデ」「モーツアルト ディヴェルティメント」「ヨハン・シュトラウス 美しく青きドナウ」「バッハ カンタータ147」「モーツアルト アヴェ・ヴェルム・コルプス」
- 2010.3.22 志音会オーケストラ第3回演奏会 松本市音楽文化ホール 指揮:藤本淳也  
「ペートーヴェン 交響曲第5番 運命」「シューベルト 交響曲第7(8)番 未完成」「モーツアルト コシ・ファン・トゥッテ序曲」
- 2011.3.26 第11回志音会演奏会 松本市音楽文化ホール 指揮:横島勝人、吉野恵美子  
「ペートーヴェン 交響曲第7番」「島よ」「ヘンデル メサイアより」
- 2012.4.8 志音会オーケストラ第4回演奏会 長野県松本文化会館中ホール 指揮:久世武志  
「ブラームス 交響曲第1番」「ペートーヴェン ピアノ協奏曲第3番 ピアノ:臼井文代」「バッハ 管弦楽組曲第3番」
- 2013.3.24 第12回志音会演奏会 志音会創立60周年記念 キッセイ文化ホール中ホール 指揮:横島勝人  
「ペートーヴェン 交響曲第8番」「モーツアルト レクイエム」
- 2014.4.6 志音会オーケストラ第5回演奏会 松本市音楽文化ホール 指揮:村松秀明  
「ドボルザーク 交響曲第9番 新世界より」「ドボルザーク 弦楽セレナーデ」「ドボルザーク スラブ舞曲」
- 2015.3.29 第13回志音会演奏会 松本市音楽文化ホール 指揮:横島勝人  
「ヨハン・シュトラウスII 喜歌劇〈こうもり〉より」「ブラームス 交響曲第4番」


  
**出 演 者**

**オーケストラ**

|            |             |           |           |           |           |           |
|------------|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| ◆コンサートマスター | 牛山 正博(23)   |           |           |           |           |           |
| ◇ヴァイオリンI   | 向井 和子(12)   | 堀口 洋子(13) | 等々力康友(15) | 小笠原理美(19) | 牛山 正博(23) | 宮入 正幸(29) |
|            | 市江 純子(30)   | 木口 宏子(39) | 外山由美子(39) | 渋谷 知子(48) | 手嶋 萌(59)  | 井崎 遙(63)  |
|            | 田之上万穂(67)   | 松尾 美倫(67) | 竹内 韶(在2)  | 根津 葵(在1)  | 小岩井聰美(賛)  |           |
| ◇ヴァイオリンII  | 富田 則子(18)   | 波多腰玄一(20) | 露木 美貴(34) | 牛山 千史(55) | 牛山 孝介(58) | 犬井 啓太(60) |
|            | 赤羽 悠(61)    | 犬井 知美(67) | 金子 由季(67) | 岡村茉里奈(在2) | 高砂慎太郎(在1) | 深沢 厚(顧)   |
|            | 久岡めぐみ(賛)    | 藤丸 薫(賛)   |           |           |           |           |
| ◇ヴィオラ      | 黒田 幸子(12)   | 雨宮えりか(31) | 宮入 徹(33)  | 橋澤 博子(34) | 寺島希容子(45) | 高橋美穂奈(47) |
|            | 塩野 寛之(60)   | 草間 美嘉(友)  | 塩原 葉子(友)  | 竹内ゆかり(友)  | 花見 能瑞(賛)  | 横田 裕祐(賛)  |
| ◇チェロ       | 伊藤 勇夫(16)   | 長繩 建三(18) | 中村百合恵(67) | 大山 匠飛(在1) | 寺澤 克義(友)  | 金久保陽子(賛)  |
|            | 金子ひかり(賛)    | 竹内 久恵(賛)  | 宮尾 悠(賛)   | 宮崎 清之(賛)  | 森川 大樹(賛)  |           |
| ◇コントラバス    | 支倉 早奈(38)   | 柳沢日出夫(38) | 挾間 孝(友)   | 柳沢 由香(友)  | 河西 裕太(賛)  | 福澤 美里(賛)  |
|            | 細野 理絵(賛)    |           |           |           |           |           |
| ◇チェンバロ     | 白田由香里(29)   |           |           |           |           |           |
| ◇フルート      | 赤坂 怜那(在3)   | 滝沢 都(賛)   | 竹内 朱里(賛)  | 原田喜比古(賛)  |           |           |
| ◇オーボエ      | 一色 祐吾(在3)   | 山本 朋佳(在2) | 山崎 智幸(友)  | 降旗 信一(賛)  |           |           |
| ◇クラリネット    | 大前美和子(35)   | 中條堅一郎(46) | 羽生 瑞紀(在2) | 泉 秀登(賛)   |           |           |
| ◇ファゴット     | R・ワインガート(友) | 荒井ゆかり(賛)  | 萩原かほり(賛)  | 福田 伸幸(賛)  |           |           |
| ◇ホルン       | 山田 裕介(51)   | 丸山 拓朗(在3) | 青木 孝學(賛)  | 田島 哲也(賛)  | 西山 高志(賛)  |           |
| ◇トランペット    | 塩野 英雄(32)   | 横川 博司(44) | 横川 憲(45)  | 羽賀 裕輝(60) |           |           |
| ◇トロンボーン    | 塩原 武文(29)   | 永原 史崇(51) | 須坂 浩章(賛)  |           |           |           |
| ◇チューバ      | 藤田 純平(賛)    |           |           |           |           |           |
| ◇ティンパニ     | 横山 瞳(友)     |           |           |           |           |           |
| ◇バーカッション   | 川上 慶吾(在2)   | 下澤 渉(在2)  | 塙田 楓(在1)  |           |           |           |

**合 唱**

|       |           |           |            |            |           |           |
|-------|-----------|-----------|------------|------------|-----------|-----------|
| ◇ソプラノ | 耳塚 真弓(5)  | 酒井サユリ(10) | 山本 紗子(11)  | 宮島 光子(12)  | 鴻田 康子(15) | 藤森三千代(19) |
|       | 駒村 尚子(22) | 皆川 静子(25) | 卯之原紀子(27)  | 中村友規子(30)  | 保坂美代子(31) | 安藤 尚美(34) |
|       | 菊原 理枝(34) | 張 淑美(44)  | 永田 邦恵(47)  | 小笠原遙香(在2)  | 高橋 美貴(在2) | 中西 美結(在2) |
|       | 加藤 光(在1)  | 草道 祥子(友)  | 三溝アイ子(友)   | 白澤 祐美(友)   | 杉山 道子(友)  |           |
| ◇アルト  | 小沢 瑠奈(5)  | 小山 武子(6)  | 大久保富美子(12) | 宇佐美美穂子(19) | 倉科小百合(21) | 柳澤 啓子(25) |
|       | 小沢 公子(26) | 河口 恭子(28) | 白木 洋子(29)  | 岡崎 里美(30)  | 勝谷 桂子(30) | 野尻 光(32)  |
|       | 北澤 玲子(33) | 羽鳥 元美(33) | 中村まり子(35)  | 有賀 詩織(54)  | 碓井有紀子(56) | 植村 夏帆(在2) |
|       | 太田 納理(在2) | 関 陽香(在2)  | 南嶋 愛奈(在2)  | 小川由紀子(友)   | 柏浦 厚子(友)  | 北原 智子(友)  |
|       | 田中 範子(友)  | 松本 紀子(友)  |            |            |           |           |
| ◇テノール | 太田 良則(5)  | 齊藤 道男(6)  | 犬飼 康元(7)   | 岸邊 和夫(7)   | 宮本 昭彦(12) | 有田 直之(13) |
|       | 三溝 牧夫(15) | 森 雄三(16)  | 細萱 美嗣(17)  | 須田 知孝(21)  | 杉山 敦(25)  | 竹淵 哲雄(29) |
|       | 中村 宏(29)  | 上松 幸雄(32) | 松本純一郎(顧34) | 竹内 巧(43)   | 津野尾悠弥(在2) | 花岡 大地(在2) |
|       | 杉山 貴(友)   |           |            |            |           |           |
| ◇バス   | 耳塚 真(5)   | 浅輪 賢治(10) | 野口 洋一(14)  | 青木 透(15)   | 三才 萬里(15) | 上條 正名(18) |
|       | 林 哲郎(19)  | 上野 千尋(25) | 西川 文章(26)  | 柳原 忠志(26)  | 山口 洋明(27) | 小林 秀男(28) |
|       | 草間謙一郎(38) | 木村 宏樹(66) | 松原 太一(67)  | 杉田 一弥(在1)  | 三代澤圭祐(在1) |           |

※()数字は卒業回 (在)在校生数字は学年 (顧)顧問 (友)団友 (賛)賛助出演

校 歌

松原威雄 岡野貞一 作詞  
作曲

讃歌 深志百年

小林俊樹 飯沼信義 作詩  
作曲

一、蒼溟遠き波の涯 黒潮たぎる絶東に  
たでり大和の秋津洲 光榮の歴史は三千年  
そのうるはしき名を負へる 蜻蛉男児に栄えあれ

二、時の流れは強うして この世の旅は長けれど  
自治を生命の若人は 強き「力」に生くるかな  
山河秀でし此の郷に 碇固し我が母校

三、暁こめて鳴り出でし 時代の鐘を身にしめて  
世の先駆者名に恥ぢず 心を磨き身を鍛へ  
移らふ星を数べて 守るも久し深志城

四、朝に仰ぐ槍嶽に 深き真理を探りつ、  
夕筑摩の野を行けば 胸に充ちくる想華あり  
嗚呼学術の香に集ふ 契りも深き友九百

五、古城空しく苔古りて 濁世の波は高けれど  
清き心のひとすぢに 志あるますらをは  
自治の大旗翻へし 前途遙かに望む哉

スタッフ紹介

|            |               |           |           |
|------------|---------------|-----------|-----------|
| [会長]       | 杉山 敦(25)      | 矢野 信也(31) | 宮入 徹(33)  |
| [副会長]      | 上野 千尋(25)     | 市江 純子(30) | 勝谷 桂子(30) |
| [会計]       | 小林 秀男(28)     | 柳原 忠志(26) | 安藤 尚美(34) |
| [監事]       | 林 哲郎(19)      | 竹内 巧(43)  | 村上 正大(46) |
| [事務局長]     | 中村友規子(30)     | 寺島希容子(45) |           |
| [事務局]      | 堀口 洋子(13)     | 上條 正名(18) |           |
|            | 駒村 尚子(22)     | 柳原 健三(18) |           |
|            | 露木 美貴(34)     | 正(34)     |           |
| [ホームページ担当] | 伊藤 勇夫(16)     | 横内 正(34)  |           |
| [技術委員会]    | 吉野恵美子(委員長・18) | 寺島希容子(45) |           |
|            | 牛山 正博(23)     | 等々力康友(15) |           |
| [合唱指導]     | 吉野恵美子(18)     | 松本純一郎(34) | たぐちたみ(39) |
| [ピアニスト]    | 白田由香里(29)     | 中島 加恵(51) | 有賀 詩織(54) |
| [ドイツ語発音指導] | 金岡 泉(友)       | 宮島 祥代(友)  |           |
|            | 永田 邦恵(47)     |           |           |

|             |           |
|-------------|-----------|
| [代表]        | 等々力康友(15) |
| [事務局長]      | 長綱 建三(18) |
| [総務]        | 堀口 洋子(13) |
| [会計]        | 市江 純子(30) |
| [演奏責任者]     | 牛山 正博(23) |
| [弦Sec.責任者]  | 宮入 徹(33)  |
| [管打Sec.責任者] | 塙原 武文(29) |

[ステージマネージャー] 宮澤光太朗(チーフ・45) 小林 新(サブ・友)  
[チラシ・チケット・ポスター・パンフレット制作・印刷] 株式会社 ブラルト

